

東京大空襲犠牲者追悼挨拶文

2023年3月10日 川杉元延

実行委員長の川杉元延と申します。本日は、多くの方々にご参列をいただきありがとうございます。

78年前の1945年3月10日、アメリカのB29爆撃機325機が東京下町に低空で飛来し、午前0時7分から、約1万3000発、1800トンの焼夷弾を投下しました。わずか2時間半余の空襲で、10万人以上の死者、11万人以上の負傷者、約100万戸が被災しました。

ここ言問橋では、両側から逃げてきた人でひしめきあい、北西の風にあおられた劫火が走り、一瞬のうちに荷物や衣類が焼かれ、人々は折り重なり炭のように焼かれてしまいました。橋の縁石は高熱で爆ぜ壊れ、その縁石や石組みの橋脚上部には、人の肉片、脂、血液がこびり付いた痕跡がありました。橋から飛び込んだ人、炎と熱波に追われ川に逃げ込んだ人は、川面を走る劫火に襲われ、水温10度の水の中で溺死し、この周辺だけで7000人が亡くなったといわれています。

この隅田公園には780体のご遺体が、清川・今戸地区に1,207体、上野公園に7,800体、その他台東区内に1,000体以上のご遺体が仮埋葬されました。下町全体の約8万のご遺体は1948年から3年かけて改葬されましたが、ほとんど引き取り手がなく墨田区横網の震災記念堂に納骨されています。仮埋葬の2万体制以上が不明で改葬されていないとも云われています。

この追悼碑は、死して家族にも会えなかった方のお墓でもあります。本日ははるばる宮城県から参列された方がいます。この碑は、1986年3月に台東区によって建立されました。これを記念し、犠牲者追悼の「灯籠ながし」が始まりましたが、河川浄化のため中止になりました。

1988年、東京大空襲犠牲者追悼・記念資料展実行委員会が結成され、台東区後援で第1回資料展と追悼集会を開催しました。その後、台東区共催、教育委員会後援で開催するようになり、今年で36回目を迎えました。

1990年7月、東京都は「条例」を制定し、3月10日を「東京都平和の日」と決めました。そして、鈴木俊一知事のもとに「東京都平和祈念基本構想懇談会」が設置され、相当数の資料収集しましたが、石原都知事下の1999年に「東京都平和祈念館（仮称）」の建設は凍結され、今日に至っています。私たちは、東京都に「平和祈念館」建設を求めます。

あの忌まわしい戦争による空襲で、日本各地で多くの方が被災しました。戦後、民間人戦災死傷者の援護立法運動が始まりましたが、1987年に最高裁の「戦争被害は国民が等しく受忍すべきもの」として、上告棄却され、敗訴となりました。2003年には小泉首相が「戦後処理は終わった」とし、政府与党は被災者援護に背を向けています。2010年に全国空襲被害者連絡協議会が結成され、超党派空襲議員連盟への要請活動と空襲被災者救済法の制定を求めて運動しています。被災者の高齢化がすすみ亡くなる人が多く、早期の救済立法が求められます。

昨年2月24日、ロシア軍のウクライナ侵攻で始まった戦争が未だ止まずつづいています。日本政府は「敵基地攻撃能力」持つことを閣議決定し大軍拡をすすめようとしています。軍事対軍事で平和は築けません。憲法9条を守り輝かせることが大切です。

過去の証言・記録を未来に繋げなければなりません。私たちは戦争による惨劇の事実を風化させず、平和の大切さを伝えるため活動を続けることを誓い、戦争犠牲者に哀悼の誠を奉げ、実行委員会を代表しての挨拶とします。ありがとうございました。